

旭陵関西

旭陵関西25号の発行について



旭陵同窓会関西支部長
阿部 紀一郎 (54期)

旭陵同窓会員の皆様には、未曾有の嵐の中、いかがお過ごしでしょうか。お見舞い申し上げます。早速ですが、今年の支部総会については色々なご意見を賜りましたが、COVID-19を正しく恐れ(別掲します)た上で、開催をしたいと存じます。また、今回私たちは「消費者」として経済の血液を循環させる役目を担っていることにも気づかされました。動脈から流れてくるのを待つのではなく、毛細血管を活性化させて血液を呼んでくる役目を果たす必要があります。これが準備を始めた理由の一つです。



旭陵同窓会会長
木下 毅 (37期)

元気に乗り越えよう

おかげ様で、下関西高等学校100周年記念行事もほぼ終わり、100周年記念会誌の編纂に取り組んでいる。

今、世界は新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の蔓延で大変な状況である。日本でも感染が広がり緊急事態宣言がなされ、会議や催事はほとんど中止となつてい

発行人
旭陵同窓会関西支部長
阿部 紀一郎
印刷所 富士精版印刷(株)
TEL. 06-6394-1181

つです。

ご案内のとおり昨年度は創立100周年の記念行事や支部創立25周年の記念の年でした。ご協力賜りました各位には改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。記念事業については、記念講演者の記事も別掲で紹介いたしますのでご覧ください。

さて、コロナ禍は、年初より多くの人が生活しているところで猛威をふるっていることは、全く迷惑な話ではありません。とはいえ、40億年ほど前に誕生したとされるウイルスによって地球上のあらゆる生物は将来を左右されてきたのも事実です。そもそも彼ら(ウイルスをあえてこう呼ぶことにする)は生物ではないとされているもの日々の形態を変えて「生きていく」ことに改めて気づかされたことでした。(2面につづく)

創立百周年、新たなスタート



山口県立
下関西高等学校校長
山田 哲也

旭陵同窓会関西支部の皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のことと心からお喜び申し上げます。また、同窓生の皆様方には、平素から本校教育の推進に多大なる御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は、この4月に退職された山根敬二前校長先生の後任として着任しました山田哲也です。「天下第一関」の校是の下、多数の卒業生が国内外で活躍され、輝かしい歴史と伝統を刻んできた下関西の校長を拝命し、身の引き締まる思いであります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今春も新たに235名が卒業し、旭陵同窓会の会員となりました。また、平成29年度に新学科として設置された「探究科」は今春一期生を送り出しました。3年間を通して生徒たちは努力を積み重ね、教職員も一丸となって生徒の指導に当たりました結果、今

る。下関ではコロナ感染者は6人発生したが、4月12日以後発生はなく、現在入院患者はゼロである。山口県でも感染者が減り少し落ちついてきているが、2次、3次の感染もいつ起きるかわからない。経済も落ち込み失業者も増えている。市内のホテルやレストランも休業しているところが多く、普段の生活ができなくなっている。旭陵同窓会も本部総会とはりあえず延期とし、今年度開催するかどうか検討中である。東京支部は来年に延期と決まった。今年度は学校の卒業式・入学式も簡素化され、在校生、家族や来賓

の参加なしで短時間に行われた。もちろん同窓会会長の祝辞もなくほっとしていることもあるがさみしさもある。6月の文化祭も中止となり、J R西日本副会長 来島達夫さんをお願いしていた旭陵文化講演会も取り止めで、同窓会活動もほぼなくなっている。市の自粛は続いており、4月の海峽ウォーク、5月の先帝祭、8月の関門花火大会、8月の馬関まつりは中止となった。1日も早く新型コロナウイルス感染が収まり、普通の生活ができる状態になるのを願っている。9月入学が検討され始めている。

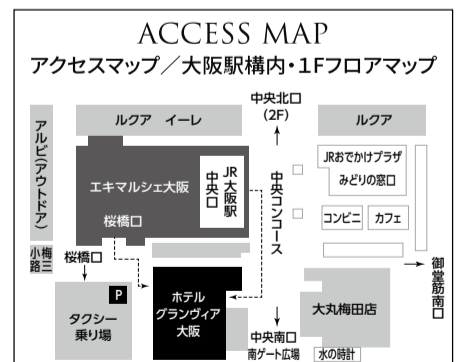
春の大学入試の合格状況は、国立大学の現役生合格者数は昨年度より20名多い113名、合格率についても上昇しました。とりわけ、東京大学や京都大学への現役での合格等、いわゆる難関大学への合格者も増加するなど、着実に成果を上げることができました。さらに、平成30年度からは文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けています。これにより、理数教育や探究活動の充実とともに県内外の高校生と切磋琢磨する機会も増しており、これに加え、山口県教育委員会指定の次世代型教育パイオニア校としての取り組みを通して、教育内容や教育環境の一層の充実にも努めているところです。創立百周年、新たなスタートともいえる本年、全日制普通科・探究科、定時制普通科の各学科の特色を生かしながら、変化の激しいこれからの社会で活躍できる有為な人材の育成に向けた教育活動の充実に取り組み、生徒一人ひとりの夢の実現を支援してまいりますので、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。旭陵同窓会関西支部のますますの御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。

それは教育だけでなく社会の仕組みも変わってくるし一時的な教員不足など、膨大な費用が掛かる。拙速な対応はやめてほしい。下関の新型コロナウイルス感染は収まっているが、これは交流や若年者が少ない事でもある。人口減少は避けて通れない。都市部に出ている下関の人々が下関の活性化に力を注いでくれるとありがたい。関西に在住の卒業生にも大いに期待をしている。9月の関西支部総会までに、世の中が落ち着いている事を願っている。

関高 令和2年度 旭陵同窓会関西支部総会案内

- 日時: 令和2年9月6日(日) 10:30~15:00
- 場所: ホテルグランヴィア大阪 20階 鳳凰の間
〒530-0001 大阪市北区梅田3丁目1番1号 (JR大阪駅中央口よりすぐ)
TEL.06-6344-1235(代) FAX.06-6344-1130
- 来賓: 木下同窓会会長、本部役員、山田 哲也校長
- 会費: 8,000円(家族3,000円、85期以降2,000円)
- 式次第: 10:30~11:00 総会

軽装・ノーネクタイで
ご出席下さい



- ※同窓生をお誘い合わせの上是非ご出席下さい。(ご家族の参加も歓迎)
- ※つり銭のいらぬようご準備下さい。
- ※なお、同封葉書またはホームページで出欠の連絡を8月10日までにお願いします。(欠席の場合も会場準備上必ず返信をお願いします。)
- ※回答後も出欠の変更がある場合、事務局まで必ず連絡して下さい。

詳しくは旭陵同窓会関西支部のホームページ
(<http://www.kyokuryo-kansai.jp>)
をご覧ください。

11:10~12:30 特別講演 寺川 奈津美氏(78期)

◆演題◆

『令和時代の気象予報とのつきあい方』

◆要旨◆

どのくらい異常気象が身近に迫っているものなのか、これだけは知っておきたい気象情報の見方などをお話できればと思います。

寺川 奈津美氏 プロフィール

山口県下関市出身。気象予報士・防災士。慶應義塾大学理工学部を卒業後、2008年NHK鳥取放送局でキャスターを務める。同年、気象予報士の資格を取得。2011年4月より5年間NHK総合「ニュース7」で気象情報を担当。2016年4月よりフジテレビ「直撃LIVEグッディ！」お天気コーナー担当。出産を経て、2月より復帰。著書「はれますように 未来はきっと変えられる」



12:30~15:00 懇親会

関西支部総会に参加して



平 弘志 (46期)

卒業し、大阪で勤務し始めて以来、同窓会には全くの無縁。還暦の際、吉見中学、西高と立て続けに同窓会に初めて出席した。

誰かはわからぬも、少し話すと不思議なことに当時の事まで思い出してしまう。名前さへも出てきそうになる。それに何十年かぶりに会う皆さま、元気そうなのである。こちらも嬉しくなる。

サラリーマン生活の後半から、企業内では、誰をも「さん」づけで呼ぶ。いつの間にか違和感も消えた。ところが、ここでは、のっけから「呼び捨て」。何も考えずとも。この気持ちよさ。何も言わずとも「呼び捨て」。OBとはいものだなと感じつつ、それから10年。ひよんなことで濱岡女史を知り、幾度かお店にも顔を出し、「大阪でも旭陵の集まりがあるのよ」とのお誘いに乗り、今回初めての出席となった。

さあ、誰と会うのだろう。誰それとわかるのだろうか？ 当日会場下には、お世話してくださる人たちの案内が、こういう皆さんの力で、会が成立するのでしょうね、ありがたいことです。エレベーターで一席になった、上品なご夫婦。何かしら覚えが、ご主人が、何と同窓生だった。

会の最後に、全員で、校歌や応援歌を斉唱。忘れていたが、歌いながら思い出すものだ。 たっぷり2時間あの時代を思い出した。

「呼び捨て」ができなかったことは残念だったが、この大阪でこれから新しく先輩・後輩と知り合っていくのも、これもまた

楽しんである。

関西支部総会に

唐戸市場から初参加



林 憲志 (57期)

初めまして、第57期の林と申します。現在、家業の林商店(海産物の製造販売)を継ぎ、下関の唐戸市場で毎朝3時から頑張っています。在学中はハンドボールクラブに所属していました。昨年、ハンドボールクラブの1年先輩の中山さんが下関の唐戸市場に突然お越しになられて「大阪で同窓会があるのその会場で下関の海産物の展示即売会をやってみないか」と声をかけていただいたのがきっかけで、昨年9月の大阪での同窓会に初めて参加させていただきました。海産物の即売会もやらせていただきました。本音を言いますと「下関から大阪まで行くのはめんどうくさいなあ。あんまり行きたくないなあ。でもハンドボールの先輩でもありキャプテンでもあった中山さんからお話なので、むげにお断りできないしどうしようかなあ」と心の葛藤が少しだけありましたが、参加させていただきましたことに決めました。(中山さん、申し訳ありません)

当日会場に行きましたが、ほぼ全ての方が初めてお会いする方ばかりでした。司会の中谷さんが「下関から海産物の即売に来ている」と皆さんにご紹介していただき、沢山の方が即売ブースに来ていただきました。皆さんと初めてお話をさせていただくのに、とてもフランクに色々とお声

をかけていただき、楽しい時を過ごさせていただきました。あつと

いう間に時間が過ぎました。意外でしたが多くの方が唐戸市場、林商店に来られたことがある事もわかり、びっくりしました。一番嬉しかったのは、久しぶりに校歌を歌えた事です。私は「久遠に蒼く潮わきて・・・」が大好きで、特に「我ら学びて止まざれば、我らの肩に世界有り」という句が好きで、気が付くと知らず知らず口ずさんでいる事もあります。在学中よりも実社会に出てからのの方が、そしてこれから先の方が更に学ばなければならぬと思えますので、校歌を口ずさみながら、西高卒業生の良い意味での誇り・プライドを持って頑張っていきたいと思えます。同窓会に参加させていただきまして、ありがとうございます。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。下関に帰られた時には唐戸市場にお立ち寄りください。

東京支部より 旭陵同窓会関西支部の皆様へ

東京支部総会の当番幹事代表を務める66期の秋葉良和と申します。昨年は平成から令和に年号が変わり、東京オリンピック開催も控える中、昨年100周年を迎えた下関西高が、次の100年に向けたスタートを切る本年、関西支部でも9月に大々的に総会を開催されるところお伺いし、嬉しい限りです。



秋葉 良和 (66期)

東京支部はコロナ禍、今年の総会の開催を1年間の延期することとなりました。幹事一同の思いが強い中、延期の判断は苦渋の決断でしたが、その分来年の総会が大いに盛り上がるよう、次のテーマを掲げ準備をしております。

西高101年 次世代へスタートダッシュ!!!

故郷と母校とつながる場、新しい出会いの場をリニューアルし、少子・人口減少の時代ではあります。次の100年につなげるために、今回は若い世代の掘り起こしに重点を置きます。

卒業したばかりの10代から20代の若い世代に魅力あるワークショップ等の交流の場を設け、かつ老若男女問わず同窓生の皆さんが参加したくなる、ワクワクする新しいコンテンツの提供を計画しています。

振り返ると私自身にとっても、高校時代の3年間は人生においてかけがえのない時間であり、西高そして故郷下関に常に誇りを持って人生を歩んできました。恋に勉

強に部活に夢中になった日々。また、生徒会長を務め、全校生徒の前で披露した伝統の赤フン踊りなど、卒業して30年以上経つ現在も昨日のこのように感じます。現在、国内外で隠れることなくビジネスを展開しているのも西高での経験が礎となっており、感謝しています。

同じ故郷で同じ高校で過ごした同窓生が世代を超えて集まる旭陵同窓会には本当に素敵な交流の機会であり、この度の関西支部総会が大いに盛り上がることを期待しております。当日は東京支部メンバーも参加させていただきたいと考えております。

最後に関西支部総会の益々のご発展をお祈り申し上げます！

- 関西で活躍している同窓生 (敬称略、順不同)
- ～いつも広告協賛ありがとうございます～
- ◆ 有限会社 西村電機サービス 取締役会長 西村 勲(33期)
 - ◆ 株式会社 味鉄 常務取締役舞子店長 安田 好幸(43期)
 - ◆ 西山眼科 院長 西山 和夫(44期)
 - ◆ 片山キッズクリニック 院長 片山 啓(48期)
 - ◆ 株式会社 ヒューマンウェア 藤村 徹(48期)
 - ◆ なかじま整形外科 院長 中嶋 洋(49期)
 - ◆ 北新地ミント 濱岡 睦子(59期)

下関唐戸市場・林商店

★お電話・HPでご注文できます 社長 林 憲志(57期)

0800-600-0884

受付時間 / 9:00~17:00 (日・祝休休み)

http://www.kanmon-club.com/

スマートフォンでもOK! 関門倶楽部 検索

林商店が LINE@ 始めました♪

友だち追加方法 ①ID検索で「@qmw9522n」 ②LINEアプリより「友だち追加」を押して「QRコード」を押して読み取ります



下関西高等学校山根前校長



木下同窓会会長



講演者の島 泰三先生

令和元年度 第26回総会

於:BREEZE PLAZA(ブリーゼプラザ)

令和元年9月1日(日)



校歌斉唱



講演風景

「講演の事後報告も講演の一部だから」という阿部支部長の連絡に依って、昨年10月の鹿児島同舎(大学生への奨学金と寮も運営)での講演会との比較を試みた。会衆の人数はほとんど同じで、同じ場所で食事があることも雰囲気は似ていた。

話した内容は、旭陵同窓会の「霊長類学的世界史観察」に対して、鹿児島同舎では「世代をつなぐ出会い」と、どちらも私にとって初めての題目だった。

私にとって講演は、本を書くことと似ている。その作業は、多くの先人の知識を紹介する大学の講義とはまったく違って、私にとって未知の知的冒険をまとめることである。本は書き手と読み手が揃って、初めて実体となる。最近作の『ヒト、犬に会う』では、朝日新聞の「折々のことば」で鷺田清一氏に紹介され、毎日新聞で池澤夏樹氏が書評を書いてくれたこと



島 泰三氏 (54期)

2019年旭陵同窓会 関西支部講演会始末

◆講演者からひとこと◆

とで、本の作業が完了した。同じように、講演では、現場に話し手と聞き手があるので、お互いの目を見て質疑応答ができる。それは本や論文の編集・査読、そして書評という手続きが同時にできるということ、そこで初めて聞き手と話し手の間に、共有する知的財産ができる。

鹿児島同舎での講演では、質疑応答の時間が一時間にもなり、質問の拳手はひっきりなしだった。それは、議論するに値すると聴衆が認めたという証拠でもあった。質疑がなかった旭陵同窓会は残念だったが、小林啓祐京大名誉教授と中村榮一彦中17回生から丁寧綿密な手紙が届き、吉川順一さんは9月13日の出版記念会に出席してくださいました。

中村氏には「面白きこともなき世に面白く」の下句を「疾風の夢吹き渡るなり」と続けてお返ししたい。小林先生は現代史の盲点を指摘し、『白村江 古代日本の敗戦と薬師寺の謎』(鈴木治、学生社)を紹介してくださいました。日本史解説の手がかりを得た感じがする。小林先生の書齋には、このような本が山積みになっているのか。また、京都へ行く楽しみが増えた。



島講師と奥様

支部行事報告

阪堺の笑顔あふれる秋日和



田底 成智 (55期)

日頃、俳句を作ることなど縁遠い私でさえも、頭に、右の俳句が思い浮かびました。それほど、楽しいひと時でした。

旭陵同窓会関西支部では、春と秋の年二回、ハイキングを企画しています。例年でしたら、秋のハイキングは紅葉を目的として企画します。しかし、二〇一九年は、下関西



美味しかった味鉄での新年会

藤村 徹(48期)

今年も味鉄の新年会に楽しく参加いたしました。毎年満足しています。毎年の総会で景品提供をいただいています。味鉄さんの最高級神戸牛ですが、新年会を味鉄さんで行うと聞き参加してもう5回?

安田先輩からの挨拶(お肉の説明、焼き方の秒数の説明)で始まります。皆神妙に聞きます。これが10秒、裏返して何秒、お塩で…。これがイチボ、これがミスジ…と真剣です。最高級の神戸牛への期待で、この段階でアドレナリンMAX。もう楽しくない訳がありません。美味しく

高一〇〇周年に当たります。その記念にしたいという阿部支部長の強い思いを反映するために、濱岡副幹事長の「阪堺電車を貸し切れるらしいよ。」という発案を実現させていただきました。

参加者は、三〇名。四十四期の中村先輩の動員力により、彦同期の方が加わり、ホエールズファンクラブ交歓会も兼ねることとなり、華やかなものとなりました。

当日は、まばゆいばかりの秋日和多くの方が集まりやすいように、幹事は、下関西高の旗を掲げて待っておりました。十一月十日十一時二〇分の集合時間が近づくにつれて、懐かし顔が集い、気持ちが高ぶります。十一時三十一分、貸し切り電車があらることを知らなかったお客さんに手を振りながら、出発。少し得意な気分でした。

電車は、阪堺さんに気を使っていた。真新しい車両でした。皆さんが持ち込んだ数多くのビール、ワイン、日本酒、弁当、珍味、おつまみにより、パーティーがスタート。当日お借りした七〇一型車両の定員は三十八名です。三〇人もいれば、

訳がありません。奈良から2時間半ほど掛かるのですが、宴会の前後に興味の写真を撮る楽しみも併せて、私の毎年の行事となり。舞子公園の一角にお店があります。舞子の、明石大橋、孫文記



狭いかなと思っていたのですが、電車一両というのは貸切ると、思いのほか広いことが実感させられました。さらに、たくさんあった飲み物、食べ物、あつという間になくなりました。

路面電車というのは、起伏の激しいところは、走れません。ですから、ずっと平らなところを走ってくれるので、乗り心地は最高でした。最初に目を引いたのは住吉大社です。住吉大社は、全国二三〇〇社ある住吉

念館、海峡プロムナードなど、みどころも沢山あります。下関の海のごそばで育ったので海峡でゆっくりすると時間を忘れれます。酔っぱらっています。ここで撮った写真はすでに何十枚か売れました。そう、趣味と健康と実益?を兼ねて写真のネット販売をしています。定年後ホームページの仕事にかかり、ユーザのサイトで使う写真を探しているうちに、デザイナーが求めている写真が何となくわかるような気がして、自分で撮ってみようと思ったのがきっかけでした。一枚目が売れた時の嬉しさが忘れ

神社の総本社です。七五三の時期のため、着飾った男の子、女の子が走り回っていました。途中トイレ休憩が二か所ありました。最初の休憩は浜寺公園です。浜寺公園は、明治六年完成の公園で、「名松一〇〇選」にも選ばれています。美しい松林を堪能できました。次の休憩は、我孫子道駅でした。ここには、鉄道ファンなら垂涎の我孫子道車庫基地があります。レアな車両がいっぱい停まっています。これは日本最古の路面電車ではと思えるものもありました。鉄道に詳しくないもので、特定はできませんでしたが、貸し切りの特典ですね。

皆さんと楽しいパーティーを過ごして、天王寺駅に十三時五十五分に戻ってきました。阪堺電車の運転手さん、ありがとうございます。相当、どんちゃんやっていたはずですが、顔色一つ変えずに安全運行に徹している姿は、罰ゲームみたいで申し訳なかったです。

そのあとは、遠方から来られた方はあべのハルカスへ、飲み足りない方は串カツ屋へ、歩き足りない方は四天王寺参りへと別れました。私は、四天王寺参りの案内をさせていただきました。四天王寺は、聖徳太子が建てたお寺です。境内は、広々として、

られず、はまってしまいました。以来、空が青ければ、雲が綺麗だったら、いい夕焼けが期待できたら若草山に。あそこの新緑、あそここの紅葉、あそこのお寺、あこの花の名所と、幸い奈良は題材が豊富にあります。同じ場所でも季節と天気によりエディションは無限。写真撮影のおかげで随分と奈良に詳しくなりました。季節を楽しんでいます。現役時代に時間に追われていた生活は幻だったのか。趣味があることが今の活力になっています。クリエイター名は「奈良観光」。又、来年の味鉄さんを心待ちに。:



散策に最適でした。天王寺駅から四天王寺までの往復は、三〇分程度で酔いをさますにはちょうど良かったです。酔いがさめると飲み足りないと感じるようになり、結局、串カツ屋へ合流したような。また、来年も貸切りたい!そんな思いのハイキングでした。



ゴルフ
第37回ゴルフコンペ
・2019年10月13日(日)
・花屋敷ゴルフ倶楽部よかわコース
・優勝・熊野裕治(45期)
・準優勝・下方常由(47期)



優勝(熊野様)



準優勝(下方様)



旭陵関西の日帰り旅行には何回参加した？佐津の民宿「源助」のカニに魅了され足繁く通っています。今年は例年参加の「南校舎」の女性軍が一人だけだったので一寸寂しかったです。

思い起こせば旭陵関西支部顧問でもありJ.R西日本の社長を務められ今回引退された来島さんの引率で



西村 勲 (33期)

カニかに旅行記

第17回 日帰り旅行
2020年1月26日(日)
於 城崎・佐津



福山の鞆の浦を案内していただいたこともありました。

また城崎への特急列車の車内がまた楽しい。天下第一関下関西高の卒業生らしくお酒が入っても静かに楽しく騒ぎ他の乗客には決して迷惑をかけない上品な？車内宴会で、城崎温泉までの2時間44分があつという間に過ぎてしまいます。城崎温泉で下車し、ホームでしばらく待っていると、豊岡発鳥取行き山陰線特有の渋いディーゼルカー「キハ120」が入線してきます。これに乗り込んでディーゼル車特有の心地よい「騒音」を耳にしながらかつ20分、11時29分目的地のカニの待つ佐津に到着。駅前に待機する民宿「源助」の大将の運転する送迎バスに乗り込み5分まで到着。カニ様にご対面。「さあ食うぞー」カニ食い合戦開始。前菜はイカの刺身。カニ味噌に始まって、まずは焼きがに続いてカニ鍋、仕上げはカニ雑炊。約2時間飲んで食っておしゃべりして、ああ満足って頃合いにお開きとなる。希望者はカニを含めた日本海の干物をお土産に買い替え、14時9分山陰本線城崎温泉行に乗る。因みに山陰本線は言うまでもなく下関の幡生が起点終点で日本海沿岸を巡り京都まで伸びている全長673.8km一部を除いてほとんどが非電化区間です。汽車通学は山陰本線西の端でお世

話になりました。城崎温泉14時31分、これにてめでたく解散となり各自それぞれ温泉巡り、または温泉街をぶらぶら。私は到着していた特急で数人の仲間とともに大阪を目指しました。今年のカニにツアーも恙なく終了。お世話いただいた幹事の皆様ありがとうございました。それにこの日帰り旅行を陰から支えてくださった来島様に感謝します。

第17回旅行会(カニかにツアー)に参加しました



川野 博義 (57期)

昨年引き続き2回目の参加となります。今年も大満足のカニかにツアーの報告をさせていただきます。

1月26日(日)、朝7時45分という少し早い集合時間ですが、参加者全員気分十分という感じで時間前には大阪駅に集合。今回は参加者12名(大阪駅で11名、宝塚で1名合流)、特急こうのとりに乗車するとすぐに向かい合わせの4人席が3つセットされ、ビールで乾杯となりました。車窓の景色を見ながら2時間半の歓談の旅です。

今年「記録的」と連呼される暖冬のなかで晴天にも恵まれ、行楽にはまさに絶好だったのですが、道中どこでも雪に出会えなかったのは少し残念でした。

城崎駅でこのとりから在来線に乗り換え、2駅目が目的の佐津駅です。

駅に着くとおなじみの民宿「源助」のご主人(先代?)がバスでお出迎え、5分ほどで民宿に到着しました。

ご主人は昭和12年生まれ(82歳)のことですが、矍鑠(かくしやく)としてまだまだ現役ばりばりで何年も続投できそうです。



我が方のグループ最年長のお二人も同世代で、こちらもこのご主人同様、年少世代はパワーをいただきました。

正午少し前から宴会の始まりです。カニ料理のフルコース、目の前の大盛りのカニに会話も途切れることしばしば。飲み物はJ.R西日本様差入れのビールと先輩持込の「大吟醸関娘」(二升瓶2本)を堪能しつつ、最後の雑炊まで大満足のひとときでした。

あつという間に帰りの電車の時間となりました。

佐津駅までバスで送っていただき14時9分の普通電車に。

城崎駅ではそのまま特急で大阪に向かう人、1時間後の人、3時間後の人と三々五々解散となりました。

私は3時間後の組で幹事中谷先輩と温泉街をゆっくり探索し、鴻の湯につかり、地酒の試飲なども楽しむことができました。

帰りの特急では村永先輩と3名で再度酒を酌み交わしつつ帰阪。大阪駅20時37分でした。

旭陵関西企画のイベントはいつもちそう(とおいしいお酒)満載です。

会員の皆様もふるってご参加ください。きっとご満足いただけます。

「旭陵関西」25号発行にあたり



門田 宰 (43期)

「旭陵関西」が創刊されたのは関西支部再建総会二年後、96年である。31期の内藤先輩他数人が編集に当たられた。

何をしても最初が一番大変である。記事集め、内容、題字、紙面構成、広告、予算。大変なご苦労があつたと思う。

私が「旭陵関西」の編集を引き継いだのは04年9号からである。高校時代、「西高新聞」の編集に明け暮れていた。当時は凸版印刷。印刷所は活字を集めて組み合わせ、大きな見出し、カット、写真などは凸版を作る。ゲラ刷りが上がつてくると、印刷所に詰めつきりで校正にあつた。校正は、誤字だけでなく、ひっくり返った文字も直す。大きな見出しが気に入らなければ凸版の作り直し。数日かかる。現在はデジタル化で各段に楽になった。

10号の記念号、その年の講演は、土居ヶ浜の発掘調査を、京都大学大学院時代に行った、金関恕氏にお願いした。会報掲載の写真のために、北京へ出張される直前の金関氏にお会いし写真を撮らせていただいた。

原稿に書かれた場所を撮影するため、現地に行ったこともある。

10号発行後、これまで寄稿いただいた方のデータを取ってみた。43期が圧倒的に多く、17人、20件。その後も43期の仲間には、何度も寄稿いただき、助けられた。

06年東京に転勤となり、2年間は東京で編集にあたる。

11号からは紙面の文字を大きくした。

この年の総会で講演をいただいた、映画監督佐々部清氏が先日亡くなられた。彼の「チルソクの夏」

「カーテンコール」は、懐かしい下関の街を思い起こさせる。佐々部監督のご冥福をお祈りいたします。

08年東京から帰ってきて最初の総会は、最高裁長官を退いたばかりの32期の町田顯氏。実に公私の「私」がない日常、大変なご苦労がうかがえた。

09年の14号は、これまで印刷を依頼していた「エイシン印刷」が突然倒産、急に新しい印刷所を捜すことになる。幸い、48期中野光男氏が専務の「富士精版印刷」がうけていた。だくことになり無事発行を継続、費用もこれまでより安く広告費で十分賄えるようになった。

10年の総会は直木賞作家「古川薫氏」に再び来場いただき。二度目だが、今回は「田中絹代ぶんか館」館長としての講演。

唐戸にある「田中絹代ぶんか館」を16年初めて訪れてみた。前年に亡くなられた、船戸与一氏(39期)のコーナーが設けられていた。

99年の第6回総会で講演いただき、翌年00年に直木賞を受賞された。11年3月、東日本大震災。総会は、同期43期の岡村定矩氏(当時東京大教授)にお願いした。演題は「宇宙ってなんだか知っていますか?」。前日、同期の安田氏が店長の「味鉄」に43期が集まる。

13年18号、総会は二十回目。この年3月に関西支部創立以来役員をやられていた42期末光氏、8月には元支部長の甲斐敏晴先生が亡くなられた。公私ともに大変お世話になったお二人である。会報、総会の案内状発送作業は、甲斐先生のみどりヶ丘病院の一室をお借りしてやっていた。前支部長の杉君も故郷に帰り、そろそろ自分も身を引く頃かと思ひ、この18号を最後に、「旭陵関西」の編集を後輩に託すことにした。

同窓会誌の目的は、会員同士の交流を第一とし、さらには故郷下関を身近に感じていただく。そういう意味で、ぜひ皆様に「旭陵関西」にご登場いただきたいとお願ひする次第である。

大樹会美術展の紹介と私の写真

青柳 充彦 (38期)

毎年10月頃、大阪メトロ心斎橋駅の改札を出た地下街クリスタ長堀の画廊で、絵と写真をメインにした「大樹会展」を催しています。

大樹会は、大阪工大建築科OBの集まりで、大阪府建築士会を守り立てていくことの趣旨で、率先して役員を務めるとともに、毎月第一木曜夜の定例懇親会の他、士会連合会全国大会参加やゴルフ会、見学会、勉強会等をやっています。



第二回入江泰吉賞受賞作品「薬師寺遠望」

元会長で、3代前の大阪府建築士会会長を8年務めた宮崎設計所長が、退任した余裕で「美術展をやろう」と言われたのがきっかけで、昨年10回を達成。私が写真の責任者を仰せつかっています。

私がカメラを買って貰ったのは、父が東京から林兼の本社に転勤した翌年、向山小6年で、その頃は、写真より絵に興味を持っていた。西高では、名井先生に「君の写真はなかなかだが、もう一つ訴えるものがほしい」と言われて、その時は、それが何なのか解らなかった。大学入学時に父が大阪転勤。社会に出てからは、じっくり絵を描いて

いる精神的余裕が無くなって、写真へと転向。奈良に住むようになって、大和路の美しさの魅力には気がつかなかった。

ところが、昭和57年、会員になっていた民間の大阪市民大学講座に大和路写真の第一人者、入江泰吉氏が講演に来られ、その縁で毎年2回、氏のお供をして奈良を撮り歩く催しを持たれた。

第一回は東大寺知足院。本尊地藏菩薩の足元で弁当を共にし、一時間程、氏の話を聞きした後、裏参道を辿って二月堂へ登った。生憎小雨になったが、銀杏散り敷く晩秋の奈良はとても美しかった。氏の奈良を想う心に酔い、奈良の美しさに酔った。奈良市の住人になって15年。私の奈良開眼だった。

そして、翌年、氏の審査により「大和路写真コンテスト」が行われ、生まれて初めて出品した写真が、思いがけず最高賞の「入江泰吉賞」となった。市民大では翌年も連続で泰吉賞を戴いた。



受賞作品を見ながら入江氏と談笑する筆者(前列左から二人目)

下関海響マラソン(後篇)



中谷 幸一 (56期)

完走しましたあ、海響マラソン!!

西高卒業後はまるきり運動なんてしてませんし走ることもなくなってしまった。40年を過ごして来た58歳のおやじが、約束の時間に遅れまいとしてダッシュして電車に飛び乗ったはずが、走ったのが原因で気分が悪くなり途中下車して駅のホームのベンチでダウンなんて漫画みたいなおやじをやっている普通のサラリーマンでした。

そんな私がなんでマラソンを走ろうなんて思ったかは去年の旭陵関西誌24号に掲載の前篇をどうぞ。還暦前のおやじの突然のマラソンチャレンジに家族は驚き、そしてまさか完走するなんて想定外だったようので、こみ上げるもの(〇〇ではありませんよ!)を抑えつつ胸いっぱいゴールしたんですが、感動のフィニッシュ地点には誰の姿も見当たりませんでした。後で聞くところによると、下関駅前付近とシーモールの駐車場が大変な混雑でゴール地点の海峡ゆめ広場に到着するのに時間がかかったみたいで、何だかビミョーな結末



マラソンを走るにあたっては4月

くらいから地道にトレーニングをこなしてなんとか20キロくらいを走れるようになってはいました。ネットで見るとフルマラソンを走るには30キロ過ぎが一番しんどくてそこを突破できればかなりの確率で完走できるとあったので心に刻んで本番当日に臨みました。「30キロ地点はさぞかしきついなやろうなあ」などと思いを巡らせつつ走っていましたが、なんのなんの長府を折り返して左に周防灘を眺めながらの15キロ地点の唐戸市場を過ぎたあたりから早くも両足にすっかり嫌な感じの違和感が、えっ!もう? それでも下関グランドホテルの前で応援してくれた同期の宮本君とその先の関彦橋の上で見守って頂いた黒岩先輩の温かい激励のおかげでしばし痛みも忘れることができました。

ほんまに沿道の皆さんの声援・ハイタッチは他の何よりも(ステーションの水やバナナももちろんありがたかったのですが)励みになりました。さて中間地点は彦島の老の山公園から彦島大橋に向かうあたりで響灘を眺めながらの絶景スポットなんです。さすが存じのようにだらだらの上り坂です。皆さん車では通ったことがあっても走ったことなんてないですよ。疲労の蓄積したランナーの足には地獄のおもてなしでした。そしてこのあたりから側道でストレッチをしたり、へたりこんだりの同胞の



姿がちらほら。私もこの痛みから逃れようと屈伸したり膝に冷却スプレーをしてもらったりしながら走りまわりました。しかしながら知らず知らずのオーバーペースがたたったのか痛み出した膝は回復することはない、残りの20キロは足の痛みとの闘いでした。途中からは走っては歩き走っては歩きの繰り返しでした。そんなおやじを尻目に、気合の入ったキレイ系の女子ランナーにスルーされ、かなりのご年配の方々にも追い抜かれ、挙句の果てには着ぐるみのミッキーマウスにもかわされて「いよいよ完走の危機か」と思い始めた30キロ地点、ようやく差し掛かった長州出島に渡る橋の上で折り返して来た後輩の41期の市長とハイタッチして生まれつきの負けず嫌いに火が付く、更に35キロ地点ではタイムリミットの6時間完走のペーサーに追いつかれたことでお尻にも火が付きました。このペーサーに置いていかれると完全にアウト、西高時代にハンドボール部で培った根性でこの最後の集団に食らいつき足を引きずりながらのゴールでした。

モチベーションを下げまいとしてあちこちで「走る走る」と吹聴してしまいました。色々相談に乗って頂きアドバイスを頂戴した下方先輩に誌面をお借りしてお礼を申し上げます。

100周年記念式典での 記念講演



理化学研究所主任研究員
戎崎 俊一
(54期)

令和元年11月8日に母校の創立百周年記念式典にて、記念講演をさせていただきました。大変な榮譽と考えております。「反骨と創造の40年―私の研究者人生」と題した講演では、卒業以来40余年の人生を振り返り、今後を指向するものとなりました。この手の講演では、在校時のエピソードを話すことが多いのですが、人生の盛り過ぎた爺さんが、これから人生航海に乗り出す高校生たちに昔話をするのもあまり美しくないと思いました。そこで、自分が実現しようとして今、藻掻いている話を中心にさせていただきました。

まず、前半は宇宙開発で大きな問題となっている宇宙デブリ(ゴミ)を高輝度レーザーで掃除するアイデアの話をしました。これは、5年前に私が筆頭著者となって論文にまとめたものです。発表後、海外のメディアを中心に大きな反響があり、世間の注目を集めました。さらには、この論文の共同著者である Gerard Mourou 先生が2018年のノーベル物理学賞を受賞なさり、大変うれしく思っているという話をさせていただきました。

実は講演後に大きな展開がありました。この私のアイデアにスカパーJ SATという人工衛星を商業運用(TV放送や通信用)している会社が興味を示し、1年の準備研究の末、邪魔な衛星を片付けるサービス衛星を理研と共同で開発することになりました。5年後の

打ち上げを目指しています。最近、多くの会社がたくさんの衛星と一緒に打ち上げて通信や測位サービスをする計画が相次いで発表されています。その一部が宇宙ゴミになったとしても大変な事態が予想されます。それを見越して、ゴミとなった衛星の姿勢や軌道を高輝度レーザーで接触することなく制御する史上初めての試みに挑戦します。わくわくしています。

講演ではその後に、私が始めてしまった「赤ふん」の話を少しだけさせていただきます。

講演の後半では、日本の海岸線を襲ったたくさんの犠牲者をだす津波の原因が地震そのものではなく、それによって二次的に誘起した大規模海底地滑りであると言われ、我々の新説についてお話しさせていただきました。地中深くで起こる地震はどうしようもないが、海底表面で起こる地滑りならば、土木工事(ただし海底だが)で予防出来るかもしれません。

また、九州北部から山口県にかけての日本海側の海底には地滑り地形がほとんどなく、地震はともかく大規模な津波に関しては比較的安全であることに気づきました。このことを生かして、災害時に活躍する病院船の母港と最先端の予防・再生医療の研究開発拠点を誘致してはどうかと前田下関市



長に提案させていただいています。この点に関しては、残念ながら進展はありませんが、ぜひ母校の同窓生の皆さんの協力を実現できたら楽しいと思っています。

そうこうしているうちに武漢ウイルス禍が始まって今に至っております。このことで病院船の重要性が改めて認識されました。病院船の母港は、このような感染症に對抗する技術の開発拠点でもあるべきだと考えています。緊急事態宣言が発せられて不自由な状態ですが、ウイルスを不活性化する紫外線を照射できるLED電球や10分以内にPCR解析の結果が出る早期診断キットなどの実現に貢献しようと思っています。

講演の最後には、私が考える研究者の資質の話をしていただきました。母校は、一昨年からスパーサイエンスハイスクールの指定を受け、研究者に向けた教育に力を入れる方針と理解しています。在校生たちが、私の講演を聴いて次世代を担う研究者を志してくれることを切に祈っています。

講演の実現に当たっては、木下創立百年記念事業実行委員長、山根前校長、原本教頭、そして担当の早田教諭に大変お世話になりました。ここに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

市役所だより



田中 一博
(61期)

下関市総合政策部企画課に勤める、田中一博(第61期)です。初めて寄稿の機会をいただきました。同窓会活動は、二十年前に当時の西高体育館にて総会が開催された時が幹事の年でございました。久しぶりに会う同級のみなさんと、広告集めや、体育館周辺のお宅に、総会当日の騒音についてなどをご了承いただくために戸別訪問した記憶があります。

今、昨年十一月に発行された、学校創立百周年記念「天下第一関」(翔け旭陵)の「西高野球部の足跡」のページを読みながら、自分の野球部在籍時代を思い出して、書いています。西高野球部は、昭和二十六年の夏の第三十三回大会に初出場を果たし、記念誌には、平成十六年と平成二十九年の野球部の活躍も紹介されています。この時は、私も応援に球場に行きました。自分が高校野球を離れてからは、あまり高校野球に関心が向いていなかったのですが、不思議と母校の活躍は自然と目にとまり、応援にも気持ちが入ります。

私が高校三年生の時の夏の大会の予選は、昭和五十八年のことですが、今は、下関市立市民病院が建つ場所にあった下関球場で開催されました。我々のチームは三年生が十一人おり、レギュラー全員三年生でした。私は背番号十一番補欠ですが、勝手に「一代打の切り札」だと言っておりました。しかし、レギュラー全員が私より打つし、しかもこのチームは公式戦で下商を倒したこともあり、期待さ

れるチームでしたから、出番はなかなかありません。そうして臨んだ最後の夏の大会、開会式直後の一回戦の相手は下商。延長十回で負けてしまいました。下商を十分に苦しめました。開会式直後で、いい試合が期待されたので他校チームがバックネット裏スタンドで観戦していた記憶があります。当然ですが、このような試合で出場の機会はありませんでした。思い出は、大会前に朝日新聞が出場校の紹介してくれませんが、その年は、選手のニックネーム特集で面白い順に十位まで紹介されたことがありました。なんと我がチームからは「にやんべ」「ポチ」「くま」の三人のニックネームが取り上げられたのですが、「くま」(私です)は、他校選手のニックネームとして紹介されたのでした。最後まで補欠を脱することはできませんでしたが、高校生の三年間をチームメイトと過ごせたことは、社会人として三十年過ぎた後に考えても、たいへんな財産だと思っています。



旧下関球場

JR大阪駅直結 **ホテルグランヴィア大阪**




〒530-0001
大阪市北区梅田 3-1-1
TEL.06-6344-1235 [代表]

商いは
高利をとらず
正直に
よき品を売れ
末は繁盛



大阪府品質管理推進認定企業
富士精版印刷株式会社
本社 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目4番33号
TEL.06-6394-1181(代)
市島工場 〒669-4342 兵庫県丹波市市島町矢代字才上377番1号
TEL.0795-85-1488
東京支店 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3丁目12番10号 神田竹尾ビル2階
TEL.03-3518-8188

https://www.fujiseihan.co.jp



山梨大学医学部
社会医学講座教授
山縣 然太郎
(54期)

正しく恐れる
正しい情報で命を守る

「その1」情報を読み解く

人類史上、根絶に成功した病原菌は天然痘だけです。ワクチンと治療薬のあるインフルエンザはありますが、わが国では2018、2019年シーズンには1200万人が罹患し、約3400人の超過死亡が観察されました。人類はウイルスと共生しているのです。

新型コロナウイルス感染症が今年に入って顕在化して以来、約5か月で1800編の論文が出版されています。明らかにになったことと私の解釈は次のようです。

- ① 新型コロナウイルスは感染力が強いが、感染しても無症状か軽症が多い。宿主を殺さず増殖する賢いウイルスで、変異により毒性が異なる可能性がある。
- ② わが国の抗体陽性(感染したために抗体ができている)率は0.4%から0.6%との厚労省の報告から感染者は累積で63万人と推計され、報告数の35倍である。
- ③ 重症化は急激におき、人工呼吸器などの高度な医療が必要となるために医療体制が生死を分ける。この医療体制整備の時間稼ぎのために緊急事態宣言を行った。
- ④ 高齢や生活習慣病、喫煙が重症化の危険因子である。若者や小児はほとんど重症化しないが理由は不明。
- ⑤ 国によって重症化率、致死率が異なり、アジア諸国は死亡

者が少ない。その要因として、衛生習慣や社会的距離などの文化的背景や経済格差、医療体制、ウイルスの毒性の違い、BCGによる細胞性免疫効果などがあげられているが科学的な証明は不十分。

PCR検査の感度(感染者が陽性となる割合)は70%であり、感染者が検査で陰性となる偽陰性が30%である。一方、特異度(非感染者が陰性となる割合)は99.9%であり、非感染者が陽性となる偽陽性は0.1%である。全国民がPCR検査を実施すると、63万人と推計される感染者の内、18.9万人がPCR陰性(偽陰性)となり、無症状なら非感染者として市中で生活する。一方で、偽陽性となる12.5万人が非感染者なのに隔離される。

ワクチンや治療薬開発は世界中で急速に進んでいるが実用化には一年以上かかる見通し。重症患者受け入れ医療機関の整備・対策費と診療所の患者減少による膨大な赤字が生じるという2種類の医療崩壊が起きつつある。

「ステイホーム」という隔離政策は感染拡大防止に大きな効果があるが、老若男女を問わず心の健康を害し、肥満や運動不足、家庭内暴力、虐待のリスクを高めている。

経済は大打撃を受けた。一方で、テレワークやWeb会議などが急速に普及した。

	感染者	非感染者	
PCR陽性	441,000	125,370	566,370
PCR陰性	189,000	125,244,630	125,433,630
	630,000	125,370,000	126,000,000

偽陰性 偽陽性

「健康の社会的決定要因」は健康政策の重要な概念です。健康は、個人の遺伝要因、生活習慣、健康行動だけでなく、社会の制度、格差、経済、孤立などの社会的要因によっても決定されるということです。今回の新型コロナウイルス禍はあらためてそれを実感させられました。そして、今後、新型コロナウイルスによる直接死亡だけでなく、その予防対策による副反応(副作用)ともいえる経済危機や自粛によって生じる他の疾患による超過死亡を危惧しています。

「健康の社会的決定要因」は健康政策の重要な概念です。健康は、個人の遺伝要因、生活習慣、健康行動だけでなく、社会の制度、格差、経済、孤立などの社会的要因によっても決定されるということです。今回の新型コロナウイルス禍はあらためてそれを実感させられました。そして、今後、新型コロナウイルスによる直接死亡だけでなく、その予防対策による副反応(副作用)ともいえる経済危機や自粛によって生じる他の疾患による超過死亡を危惧しています。

その目的達成には、医療体制、個人の行動、社会経済活動の3視点での対策が必要です。この3つは時に相反する(トレードオフ)関係になることがあるために、そのバランスが重要となります。

医療体制は重症病床と資源の確保が目標です。当初から感染拡大防止は急激な患者増加による医療崩壊を防ぐために、医療体制を整備する時間稼ぎでした。

個人の衛生行動は手洗い、会話を含む咳エチケットのマスクです。マスクは集団でのドレスコードと考えましょう。3密回避の考え方として、「濃厚接触者」がキーワードになります。職場や学校で感染者が発生したとしても、濃厚接触者でなければ、隔離などの対応は不要です。感染者が出る度に

休業や休校をしていたのでは日常は取り戻せません。また、感染してしまふのは仕方ありません。日本には60万人もの無症状でPCR検査を受けることなく生活しており、PCRを受けたが陰性として18万人が生活をしているわけですから。ゼロリスクを求めるのであれば、再び「ステイホーム」です。社会経済活動も命の問題です。

新しい生活を送るにあたって、偏った情報によるインフォデミックや過度の恐怖によるゼロリスク思考により冷静な判断ができなことが弊害となります。危険と社会経済の天秤ばかりは見る人によって異なることは仕方ありませんが、正しい情報を正しく解釈すること、不要不急は人によって異なり、社会生活も命の問題であることを認識して、冷静にバランスを見極めることが、コロナ時代に強く求められています。

2020年6月5日記す

- 訃報
- 満永 志津男さん (24期) 2009年12月4日ご逝去
- 岩本 重治さん (30期) 2018年4月ご逝去
- 柴原 稔さん (29期) 2018年8月19日ご逝去
- 川野 凱朗さん (28期) 2019年1月24日ご逝去
- 米田 博さん (30期) 2019年2月6日ご逝去
- 中村 昌稔さん (33期) 2019年5月18日ご逝去

旭陵同窓会関西支部役員

役職	期	氏名	役職	期	氏名	役職	期	氏名
支部長	54	阿部 紀一郎	同	49	中 嶋 洋	顧問	27	空谷 俊和
副支部長	56	中谷 幸一	同	56	山田 浩幸	同	33	安野 洋一
幹事長	55	田底 成智	同	57	川野 博義	同	43	門田 宰
副幹事長	59	濱岡 睦子	同	58	新田 浩二郎	同	44	竹内 正文
事務局長	64	柴田 徹也	同	59	玉川 洋	同	45	唯岡 和夫
会計	60	南 左千夫	同	61	高橋 毅	同	48	上村 繁典
会計監査	47	下方 常由	同	62	岡部 和弘	同	50	来島 達夫
常任幹事	48	藤村 徹	同	63	弘中 晋治	同	53	大野 浩史

- 令和元年寄付者ご芳名 (敬称略、順不同)
- 藤井 啓爾 (33期)
- 安野 洋一 (33期)
- 益永 郁男 (33期)
- 六島 保之 (33期)
- 中山 泰道 (34期)
- 井上 秀行 (37期)
- 松村 清 (38期)
- 岡本 雅俊 (39期)
- 外野 晃広 (39期)
- 中村 利明 (39期)
- 野上 浩志 (40期)
- 園田 登志子 (40期)
- 高津 治夫 (40期)
- 吉川 順一 (42期)
- 福島 繁義 (43期)
- 杉 顕紹 (43期)
- 白石 光憲 (43期)
- 中野 善朗 (44期)
- 木嶋 孝文 (45期)
- 武地 義治 (45期)
- 平 弘志 (46期)
- 加藤 一孝 (47期)
- 中野 光男 (48期)
- 岡田 博文 (48期)
- 横田 靖子 (48期)
- 来島 達夫 (50期)
- 小田 和彦 (50期)
- 松尾 和幸 (50期)
- 黒岩 松彦 (54期)
- 中島 勇 (54期)
- 廣瀬 千春 (56期)
- 秋富 克哉 (58期)
- 玉川 洋 (59期)
- 富田 司 (60期)
- 秋富 智子 (60期)
- 高橋 毅 (61期)
- 三戸 和子 (62期)
- 富田 由美子 (63期)
- 合計金額19万6千円 (匿名の方4名も含む)

編集後記

コロナ禍の真つ只中で「旭陵関西」は発行するの、役員内でのいろいろ意見も出ましたが、阿部支部長から「旭陵関西」は同窓会の方々の交流の場であるから必ず発行すると言われ数回の編集会議を経て発行に至りました。

今号は原稿が多く、どれをどこに掲載するか非常に悩ましい編集作業でした。その結果、中村榮一先輩には申し訳ございませんが、『下関の国指定天然記念物「川棚クスの森」について思うこと』は次号に掲載させて頂くことになりました。



出来ませんでした。来年の味鉄での新年会は出席して明石大橋(左の写真は藤村徹先輩撮影)を眺めてこようと思っております。(玉川記)